

製図試験.com 自己分析課題添削シート

自己分析課題所要時間 経過時間をお書き込みください

STEP	目 標 時 間	時 間	備考
E0	年度条件	0	
E1	I.設計条件	1	具体的なコンセプトのイメージング
E1	4.計画に当たっての留意事項	2	具体的な記述を確認
E1	3.計画の要点	3	図面に反映しそうな点を確認
E2	II.要求図書	4	いつもと違う記述があれば確認
E3	1.敷地及び周辺条件	6	建ぺい率、用途地域、基礎他
	アプローチ(仮)	8	M/Sのアプローチ(仮) 想定
E4	敷地の向き	11	○×△の想定
	2.建築物	12	階数、目標床面積の設定
E4	積上図(1)	13	24コマもしくは1階最大と総3階建
E5	3.屋外施設等	16	全外構の大きさ図示
E6	最大建築面積	20	外構が納められる広場含み最大面積
E7	(3)要求室	23	全体俯瞰+適宜面積計算
	全室リスト	40	高さ・動線・部門含み面積計算
	廊下率	41	1.4~1.6+補正が必要かどうか
	部門廊下含み面積	43	グロス計算+ネット計算
E8	高さ情報	45	読み間違いないか
	動線図	50	思い込み・読み間違いないか確認
E9	積上図(2)	51	積上図(1)よりも解答に近づくこと
	ポイントアップ	53	不明・新出・判断迷う点
E10	プラン方針	55	ポイントアップから方向性方針決定
	ゾーニング	65	部門ボリューム・建築物外形・面積概算
E11	コアゾーニング	70	コア位置・建築物外形・スケルトンイメージ
E12	コマプランニング	85	室忘れ・面積間違いないか
E13	問題文・エスキース最終確認	95	問題文とエスキースの最終確認
E14	1/400エスキース		A4版1/400で一まとめ
Y1	計画の要点	145	キーワード+網羅+文章化
D0	重要記載事項・面積表	155	面積表は確定分だけでも描く
D1	基準線・寸法	165	基準線及び寸法を固める
D2	平面図スケルトン	180	スケルトンの完成・上下階チェック
D3	平面図間仕切り下書き	215	エスキースを1/200にトレース
D4	平面図間仕切り仕上げ	260	縦線・横線を一気に描き入れ
D5	断面図	280	平面図との整合性注意
D6	外構文字入れ	320	最小限表現での完成をめざす
D7	アピール	330	注釈等のアピール
CHK	最終チェック	360	最終チェック+保険として30分

(注) 課題によって若干のステップ・目標時間の変更があります。

自己評価 A-C でご記入ください

NO	項目	評価	チェック内容
1	図面印象		読みやすさ、線の意味とメリハリ、描き込み (必要なことが過不足なく)、文字、答案としての丁寧さ、アピール
2	アプローチ		メイン・サブ、その他公園広場等アプローチ、 歩車分離、敷地・建物への記号、ルート、 表現
3	寸法・面積		寸法(数字の読みやすさ、寸法線、留め) 面積表(計算式、合計、建ぺい率、容積 率)、面積上下限
4	外部空間		広場(面積、形状、配置)、敷地内通 路、駐車場(台数、表記)、駐輪場(台 数、表記)、外構、設備関連他
5	プラン印象		建築物外形、共用部形状及び豊かさ、平 面上下階不一致、動線、ゾーニング、コア、 スケルトン、環境配慮他アピール
6	吹抜・大空間		取り方、扱い方、表記
7	要求諸室		要求室面積、要求室形状、動線特記、造 作特記、抜け他
8	法規		防火区画(縦穴区画、面積区画)、2方 向避難(2階、3階)、採光、道路斜線 延焼ライン表現
9	構造		ラーメン構造、柱陸立ち、スパン、キャンチレ バー、大空間(PC、B梁、柱)、特定天 井、その他
10	断面図		表記(構造、基礎、室名、寸法、天井高 さ、屋上、設備、パッシブ関連アピール)、 平断不一致、切断位置
11	設備・PS関連		空調機械室、DS、空調用PS、受水槽室、 PS、キュービクル、EPS 他
12	計画の要点		図面との整合性、日本語、建築計画、構 造計画、設備計画、環境負荷低減、防災 対策他
13	他・失格		室欠落、面積アウト、図面不一致、他
総合評価			↑自己評価を書き入れてください! ランクとの関連A,-=1,B+,B=2,B-=3,C=4

<講評>

自己分析欄

ご自身の自己分析とそれに対する学習方法・その目標をお書き添えください。

自己分析課題

ID :

ハンドルネーム

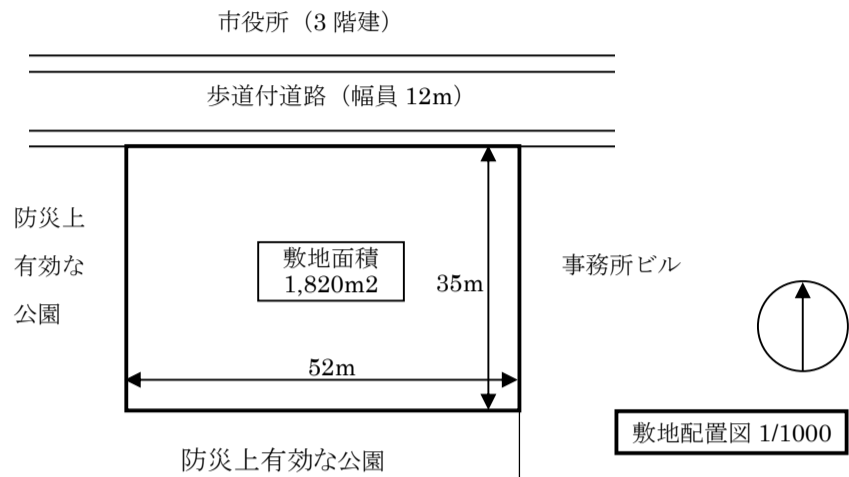
<評価>

I. 設計条件

この課題は、2022年度製図試験受験生の自己分析を行うために、ある地方都市において、屋上広場のあるコミュニティセンターを計画するものである。敷地は防災上有効な公園の一角を予定しており、公園の景観や空間を活かした施設計画とすることに加えて、バリアフリー法の円滑化誘導基準に適合することが求められている。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、近隣商業地域及び防火地域にしてされている。また、建ぺい率の限度は80%、容積率の限度は300%である。
- 地質調査で支持地盤は平均GL-2m、地下水位は平均GL-3mとなっている。
- 日影及び積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造、階数等
地上3階建ての建物とし、構造形式は自由とする。
- 床面積の合計
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段は、床面積に算入しないものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積	
学習交流部門	1階共用部から公園側にも出入口を設けるものとする。			
	調理実習室	・1mx3m 調理実習台を4台、飲食コーナー、準備室を設ける。	適宜	
	スタジオ 1/2	・防音設備を整えた音楽スタジオを2室設ける。 ・入口は前室を設け2重扉とする。	計約 100m ²	
	工作室	・1mx3m 作業台を4台、木工室、準備室を設ける。	約 100m ²	
	コンセプトルーム	・提案型の室として地域住民のニーズと対応した計画とする。	50m ² 以上	
	多目的ホール	・多目的に利用できるものとし無柱空間とする。 ・天井高さを5m以上とする。 ・空調機械室、倉庫等を設けるものとする。	200m ² 以上	
	会議室 A/B/C/D	・多くの利用者が多目的に使用できるように、異なる大きさの室とし、合計室面積が約 400m ² となるよう A/B/C/D の4室設ける。	計約 400m ²	
	図書室	・閲覧スペース(開架式書庫、テーブル・イス、キャレル)ブラウジングコーナー、児童図書コーナーを設ける。 ・貸出カウンター、図書事務室を設ける。 ・ブックモービル車庫(奥行7m×幅5m程度)を設ける。 ・書庫をブックモービル車庫に隣接して設ける。 ・BDSを設ける。	計約 400m ²	
	飲食部門	レストラン	・テーブル、椅子、カウンターを設ける。 ・デッキスペースに面する。	約 200m ²
		厨房	・レストラン用とし、従業員用便所・休憩室・食品庫等を設ける。	
共用部門/他	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・上部に3層吹抜け(65m ² 以上)を設ける。	適宜	
	事務管理室	・エントランスホールに面して案内カウンターを設ける。 ・7人程度の事務スペース及び応接コーナーを設ける。	適宜	
	一時託児室	・4名程度(約12m ²)一時預けることを可能とする。 ・事務管理室との動線に配慮する。 ・室内に便所・キッチンスペースを設ける。	適宜	
	設備スペース	・その他、各自が採用した設備計画に応じて、室外機置場等を計画する。	適宜	

・上記の室に関連して必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。

3. その他の施設等

- 駐車場は平面駐車とし、車いす使用者用として1台分、管理・サービス用として2台分を設ける。その他は公園内にある駐車場を利用する。
- 駐輪場は、平面駐輪とし、10台分以上(2.0mx0.5m)を設ける。
- レストランから出入りできるデッキスペース(40m²以上)を設ける。
- 多目的ホールから出入りできる屋上広場(200m²以上)を設ける。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画、構造計画及び設備計画については、次の点に留意して計画する。
- 建築物はバリアフリー、セキュリティ、省エネルギー、景観に配慮する。
 - 利用者の当該敷地へのアプローチは公園からの動線にも配慮する。また各部門は利用形態に応じて適切に計画する。
 - 敷地条件(方位等)や周辺環境に配慮するとともに、空調負荷の抑制や自然光の利用、日射遮蔽及び通風等を用いて、建築環境負荷低減に配慮する。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに経済性にも配慮する。
 - 構造種別、架構形式、スパン割及び基礎構造について適切に計画すると共に、適切な断面寸法の部材を配置する。
 - 設備機器の搬出入及び更新に配慮した計画とする。
 - 建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分には、所定の防火設備を適切に計画する。また、防火区画(面積区画・堅穴区画)が必要な部分には、所定の防火設備を用いて適切に区画する。なお、本建築物は、自動式のスプリンクラー設備等を設けないものとし、また「避難上の安全の検証」を行わないものとする。
 - 地上に通ずる2以上の直通階段を適切に計画する。また、必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。

II. 要求図書

答案用紙 I の定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙 I に記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1)1階平面図兼配置図 1/200	① 1階平面図兼配置図、2階平面図及び3階平面図に、次のものを図示又は記入する。 イ.建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ.室名等 ハ.設備シャフト[パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)]の位置
(2)2階平面図 1/200	ニ.設備計画に応じた設備スペース(ただし、屋上に設けた場合は断面図に図示する。)
(3)3階平面図 1/200	ホ.断面図の切断位置 ヘ.要求室の室名及び床面積 ト.屋上広場・デッキスペース(面積を明示する。)
(3)断面図 1/200	① 切断位置は、エントランスホール吹抜け部分を含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。なお、基礎部分を除き、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ④ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。

2. 面積表(答案用紙 I に記入)

- 地上 1~3階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。また建ぺい率及びその計算式についても記入する。

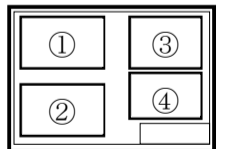
3. 計画の要点等(答案用紙 II に記入)

- 建築計画、構造計画、設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
- 周辺環境に対して配慮した点
 - 建築物の配置計画について配慮した点
 - バリアフリー法円滑化誘導基準として視覚障害者のために配慮したこと
 - 建築環境負荷低減のために工夫した点(3点とし、図示を必須とする)
 - コンセプトルームの計画にあたり、設定した地域住民のニーズと対応した計画内容及び室内レイアウトの図示
 - 建築物に採用した構造種別、架構形式、スパン割り等を採用した理由及び主要な部材寸法
 - 採用した空調方式及び採用した理由(エントランスホール・多目的ホール・厨房)

4. 図面レイアウト(本試験では解答用紙 I に記載)

- ①配置図兼1階平面図 ②2階平面図 ③3階平面図

- ④断面図・面積表



5. 自己分析表

■自己分析課題の位置づけ

この課題は、製図試験受験生の現時点での自己分析を行うためのものです。何時間かかってもよいので納得した解答案を作成してください。この課題については、原則エスキース、解答図面、要点、及び分析表を一式で提出するように心がけてください。特にエスキースは、他受講生が観ても内容がわかる程度にできるだけ描き出すようにしてください。3月末までこの課題の内容については共有しつつ学んでいくベースとします。加えて4つのコースお申込者には、オンラインで解説も行います。

■添削について

受講生・添削希望者は、図面、要点、エスキース・分析表を同封して下記住所までお送り下さい。PDFでの送付も受け付けます。切は2月28日までにご提出ください。遅れても必ず添削しますが、ペース配分の目標としてください。添削は約1週間程度でご返却します。
〒554-0012 大阪市此花区西九条2-7-8-3F 製図試験.com 事務局
送付前に図面は必ずコピーを取ったのち、その原本を4つ折りして角2号封筒を使用してください。速達、書留、宅急便にする必要はありません。



建築計画・構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

(1) 周辺環境に対して配慮した点

(2) 建築物の配置計画について配慮した点

(3) バリアフリー法円滑化誘導基準として視覚障害者のために配慮したこと

(4) 建築環境負荷低減をするために工夫した点(3点とし、図示を必須とする)

図示欄

※要点・図面・エスキースの裏面には念のため、氏名のみお書き添えください。

(5) コンセプトルームの計画にあたり、設定した地域住民のニーズと対応した計画内容
想定した地域住民ニーズ

対応した計画内容

図示欄

(6) 建築物に採用した構造種別、架構形式、スパン割り等を採用した理由及び主要な部材寸法

大梁:

柱 :

小梁:

基礎底盤厚:

(7) 採用した空調方式及び採用した理由(エントランスホール・多目的室・厨房)

エントランスホール

多目的室

厨房
